

船井情報科学財団留学生レポート

2011年11月8日

University of Cambridge Department of Physics

岡本尚也

1. 留学を決めた理由

留学を決意した最も大きな動機は「多様性の小さい日本にはない様々な価値観に触れ、見識を広げたい。その中で今後の日本に必要なものを見極めたい」というものです。同じ島国においていち早く国を開き、多様性を国家として促進してきたイギリスと日本との比較は非常に興味深いです。このような比較は、数カ月単位の留学(長期旅行?)や Visitor 等、「客」として現地で生活ではなく、実際に現地で生活し学位授与までのプロセス、様々な人々との日々の交流を通して初めて可能であると考え博士課程での留学を決意しました。特に世界中から優秀な学生、研究者が集まるケンブリッジ大学への留学は非常に有意義なものになると考えました。

研究面においても歴史ある Cavendish 研究所は他分野との交流も盛んであり、28名ものノーベル賞受賞者を輩出しています。

日本人学生にとって海外留学はリスクがあるため、避けられる傾向がある。という話をよく耳にします。帰国後、良い職に就けるのか?というのが主な理由らしく、失敗をしない事に重きを置く日本社会らしい考え(これが悪いという訳ではない)ですが、私にとっては自分のやりたい事を実現する事の方が比較にならないほど重要なので、迷いはありませんでした。第一、日本の置かれている状況を考えると、一度世界に出る事によって将来の活躍の場を世界に広げるという意味でも留学は魅力的でした。

2. 留学生活

家は私の所属する Gonville and Caius College 所有のもので私の階は3人でキッチン、浴室をシェアしています。Gonville and Caius college は医学に伝統のあるカレッジなので、シェアメイトはポルトガル人の脳科学専攻の PhD の学生とイギリス人の医学部の学生です。部屋は十分広く、場所も研究室までは自転車で10分、駅、街の中心までは3分程で着く非常に良い立地なので気に入っています。必要なものは街で手に入り、少し割高ですが、日本の食材が手に入る店もあるので非常に便利です。

研究室の同期は私も含め四名で、オーストリア人、チリ人、ロシア人がいます。皆親切で、楽しい研究室生活を送っています。皆で週末や休みの日はケム川にてパンティング(小さな舟に数人で乗り、船尾にて長い棒を使って川底を押しなが

ら進む)をしたり、BBQ 等をして楽しんでいます。また、他のグループとも交流があり、研究では共同研究を行ったり、プライベートでも交流があります。

研究室以外では中学からずっと続けていたバレーボールを、こちらでも大学の部活に入り続ける事にしました。様々な国籍やパーソナリティーの中で協調性や相互理解が必要なバレーボールをする事は非常に面白く、良いチームメイトにも恵まれています。試合の後のパブでの飲み会はこちらの生活の楽しみの一つです。

また、ケンブリッジには十色会という日本人のサークル (<http://cujif.seesaa.net/>) があり会員はCambridge の学生、研究員、会社や官公庁などから留学している七十名ほどの会員で活動しています。ここでは約月に一度のペースで様々な分野の専門家による発表を聞く機会があります。発表やディスカッションを通して教養を深める事ができ非常に充実した時間を過ごす事が出来ます。また、日本人同士の交流の場でもあるので、ここで知り合った方々と食事やスポーツを楽しんでいます。今季は十色会の会長をする事になり、運営にも携わる事が出来るので、自分の見識を広げられるよう様々な人との交流を大切にしていきたいと思います。

こちらの生活で特に喜びを感じる事は、音楽学部も設置されているため私の好きな音楽が身近にある事です。毎週ケンブリッジのどこかでコンサートが開かれています。五月には世界的に著名なピアニストであるAlfred Brendel 氏(Cambridge のVisiting Professor。高齢のためリサイタルからは引退)の公開Lecture があり友人と聴講に行き、未だ衰えぬ音色の美しさや音楽的造詣の深さに感動しました。日本のような娯楽施設などは少ないですが、違った意味で豊かな生活を送っています。